

## 【失敗から学ぶ】

妻の佳乃さんと父の敏幸さん、母の明子さんの4人で約40<sup>ヘクタール</sup>の農地に水稲や小麦、花き、を栽培しています。短期大学を卒業後、社会人として12年間働きましたが、体調を崩してしまい退職し、その後就農しました。

就農して間もないころは慣れない作業で失敗をしたこともありましたが、現在は作業の改善点や課題を自分なりに考えて農業と向き合っています。



農業に  
懸ける  
情熱



### 【業務分担で負担軽減につなげる】

「社会人の頃は、就業時間や休日など決まった生活リズムで過ごしていましたが、農家はサラリーマンとは違い、天候次第で何もかもが決まるので、就農当初は生活リズムの変化に対応するのに苦労しました。また、農業については知識や経験が全く無く、毎日仕事を覚えるのに必死で余裕はほとんどありませんでした」と就農当初の想いを話してくれた敏明さん。

短期大学を卒業した後、短期大学の職員として3年、農機具メーカーで9年仕事をしていましたが、体調不良をきっかけに退職しました。その後、療養期間中に両親が朝から晩まで農作業に励む姿を見て、「自分も両親の力になりたい」と思い就農を決意しました。

「今年は昨年に比べて小麦の面積が倍以上になったことから、より一層忙しさが増したので、「一人ひとりに業務を割り当て、負担軽減を重視しています。私は主に米と小麦、妻は季節物のハロウィンカボチャ、両親は花きを担当し、体調管理に気を配りながら農作業に取り組んでいます」

また、農業の知識を身に付けていくなかで、仲間づくりや情報交換の場となっている共同のライスセンターは必要不可欠だと痛感しているという敏明さん。個人で作業に取り組むより格段に作業スピードが上がり、たくさんの方の農業の術を身に付けることができます」

最後に「農業はまだまだ発展していく産業だと思っています。人がやっていけないこと、人が作っていないものを作り、安定した収量と収益を確保できる農業を目指していきたいです」と農業に懸ける情熱を話してくれました。

岩見沢市北村砂浜

おかとしあき  
**岡 敏明**

さん(49歳)